

脳卒中急性期における上肢機能アプローチ

～意識水準を考慮したプログラムと ADL 場面での使用促進～

小澤 一仁¹⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

[はじめに] 今回、左放線冠脳梗塞発症直後の症例に対し、意識水準を考慮して立位での上肢機能訓練を実施した。さらに ADL 場面において積極的に麻痺側である右上肢を使用するよう促した。その結果、右上肢の機能向上が認められたため以下に報告する。なお、事例報告は書面にて患者から同意を得ている。

[事例紹介] 年齢 70 代性別男性診断名ラクナ梗塞（左放線冠梗塞）現病歴 X 年 Y 月 Z 日、右不全麻痺を認め、Z+3 日トイレに行こうとした際に動けなくなり当院入院。既往歴 X-7 年、右視床出血。X-2 年、左視床出血障害名意識障害、両片麻痺（新規右片麻痺＋陳旧性左片麻痺）、感覚障害、構音障害家族情報内縁の妻と 2 人暮らし。病前生活 ADL 自立。自動車運転を行っていた。HOPE 聴取困難

[作業療法評価] Z+3～9 日 意識 JCS II-10。簡単な会話可能だが反応は乏しい。訓練場面において、背臥位・座位での IVES の使用や単関節運動を用いた上肢機能訓練実施中に傾眠となり、訓練継続は困難となる。随意性 BRS 右 III-II-V、左 IV-VI-VIFMA 右 27/66 点、左 64/66 点 MAL（右）AOU:平均 1.50 点 QOM:1.13 点感覚右上肢感覚鈍麻疑い MMSE21/30 点基本動作軽介助 ADLFIM40/126 点（運動項目 18/91 点、認知項目 22/35 点）、BI35/100 点。ADL 場面では意識水準向上が認められる。食事左上肢のみで自己摂取可能。排泄移乗動作監視。下衣操作は左上肢のみを用いて実施を試みるも、不十分さあり介助を要す。

[問題点・利点] 問題点：背臥位・座位での上肢機能訓練では傾眠となり訓練の継続は困難。利点：食事や排泄場面では意識水準が向上する。

[目標] 短期：訓練を集中して取り組むために必要な意識水準の獲得。右上肢使用頻度増加。長期：右上肢が補助手レベルとなる。

[治療プログラム]

立位姿勢をとり、IVES の使用や両上肢での協調運動を中心とした上肢機能訓練。ADL 場面で右上肢を使用するよう介入。

[介入経過] Z+15 日～スタンディングテーブルを用いて立位姿勢を保持し、右上肢へ

の IVES や両上肢でセラボールを用いた協調運動を中心に実施。実施中の意識水準は向上が認められ、訓練の継続が可能。ADL 場面においては、日常生活で右上肢の使用頻度が多い食事動作と排泄動作に絞り、口頭指示や環境調整で右上肢使用を頻繁に促すことにより、自発的な右上肢使用を推進した。FMA と MAL の点数は経時的な向上が認められ、点数向上に合わせて ADL 場面における右上肢使用設定を変更。Z+23 日回復期病棟転床。

[最終評価] Z+23~25 日 意識 JCS I -2。日常会話可能。座位や立位での訓練場面では閉眼せずに継続して上肢機能訓練が可能。随意性 BRS 右 V-V-V，左 VI-VI-VIFMA 右上肢 51/66 点 MAL (右) AOU: 平均 1.88 点 QOM:2.38 点 MMSE22/30 点基本動作監視 ADLFIM55/126 点 (運動項目 41/91 点，認知項目 14/35 点)，BI55/100 点食事左上肢で自己摂取し，右上肢の自発的な使用も認められ，空間位での茶碗把持が可能。排泄両上肢でズボンを掴むことで下衣操作を含めた一連の動作監視で可能。

[考察] 佐々木らは，意識障害に対し立位姿勢をとることで神経が賦活され，意識水準向上に繋がると報告している 1)。本症例は意識水準低下を認め，背臥位・座位での上肢機能訓練では傾眠傾向であった。そのため，IVES や協調運動を立位姿勢で実施し，継続的な訓練を図った。山本らは，ADL 訓練は麻痺手の使用頻度および主観的な使用感や学習性不使用の改善なども含め有意義であると述べている 2)。本症例において，意識水準を向上させ上肢機能訓練の量を担保したことに加え，ADL という習慣化された作業を提示し，段階的に日常生活での麻痺手使用頻度を増加させたことが，学習性不使用の改善に寄与し，上肢機能向上に繋がったと思われる。

参考文献

1) 佐々木信幸，重力のもたらす生体の反応と急性期リハビリテーション治療，Jpn J Rehabil Med, 2022, 59, 817-824.

2) 山本勝仁 竹林崇 高井京子 徳田和宏 細見雅史ら，脳卒中急性期上肢麻痺患者に対する病棟実施型 CI 療法の効果，作業療法，2020, 39, 4, 478-485.